

平成8年11月20日発行

上智大学英語学科同窓会
東京都千代田区紀尾井町7-1
上智大学英語学科事務室気付**Sophia English Language Department Alumni Association**

“山行に学ぶ”

「仙丈岳(3,033m)を背景に」

英語学科教授 楠瀬淳三



有名な論語には「仁者乐山 知者楽水」という文章がある。こんな表現に誘われたかどうか、山行をするようになってかなりの歳月が経過した。最初のうちは健康のことなどは念頭になかったが、馬齢を重ねるうちに、身体のためにも平素から「歩く」ということを心がけるようになった。老化防止のためにも大学のローカを走り回っている(例えば、エレベーターにはできるだけ乗らないようにしている)。これだけではと

ても不十分だ。というのも、教師たるもの、どうしても座業が多くなりがちで、そのため運動不足となってしまう。さらにまた、小生のような田舎者(北海道のオホーツク沿岸の寒村生まれ)にとっては、大都会のアスファルトとコンクリートの建物、それに人また人、さらに車の行列では、ストレスが溜まってしまふ。「健康は姿勢にあり、背筋・腰をのばすこと！」これこそ山でも下界でもともに当てはまる訳で、絶えず留意すべきことである。

いつでも大事なことはよく観察する(observe)ことだろう。森林浴から得られる壮快感はどこからくるのか。それは、目には見えないが、樹木から発散される殺菌作用のある物質であるフィトンチッド効果のおかげで、私たちは元気を取り戻すことになるという。

このごろ山行では、特に高山植物を注視して歩くことにしている。岩と岩との間にへばりついて自生するとても小さな植物(例えば、岩鏡)を見つけるにつけても、その可憐な姿と生命力の強さに驚嘆し、「こんな所にも」と頭が下がる思いだ。これこそ高い所を自分の足で歩いた者だけに与えられる大きな喜びと至福のときだろう。

一歩一歩の精神で歩を運び、大きな山と対峙するとき、人間は大自然のほんの一部にすぎないこと、そのため気象などの影響を大きく受けやすいことをいやというほど思い知らされ、自然に対する畏怖と畏敬の念に打たれる。「人間は自然から遠ざかるほど、それだけ病気に近づく」というW. ゲーテの警句をいまこそ咀嚼・吟味すべきではないだろうか。常に山や自然に接し、観察し、その恩恵に感謝することを忘れてはなるまい。

Festina lente.

「祭りの後 —アトランタにて—」

Teijin Kasei America, Inc. 長谷川義信 (昭和46年卒)



9年前、アトランタの一弁護士が、ボランティア活動を通して一つの夢を持ちました。「アトランタで何かを！」それが7月19日に幕を切った"Centennial Olympic Game"だったのです。Opening ceremonyで、Celine Dionが歌った"Power of Dream"は、正に、彼の夢の結実を見事に歌い上げたのだと思います。記念公園での爆破事件という不幸な出来事はありませんでしたが、8月4日のフィナーレは、様々な感動を与えてくれたのではないのでしょうか。そして再び平穏の日々。

昨年、このアトランタに現地法人が設立されたのを機に、家族共々赴任して、一年余りが経ちました。仕事は、皆様よくご存じのCD(音楽用コンパクトディスクやCD-ROM等)の原料を日本の親会社より輸入し、販売を行なっております。人員は、私を含め日本人2名、アメリカ人女性2名の計4人でやっております。

北部と異なり、ジョージアを含めた南部は、何かゆったりしたものを我々に与えてくれるような気がします。人あたりも大変マイルドで、やはり"田舎"なのでしょう。せかせかした日本人にとって、余りにもゆったりし過ぎているこの南部を本当に理解しようとする、やはり、Civil War前後からじっくりひもといていかねばならないと思います(と思い、それに関する本を買ってあるのですが、未だ読んでおりません。いつになる事やら)。

英語には全く無縁であった妻も、今ではせっせと会話の勉強を始め、それなりに楽しんでいるように見えます。娘2人も、高校という時期の青天の霹靂の外国暮らし、父親としてはちょっぴり心配もしておりましたが、何とかなっているようです。もちろん、英語力はまだまだですが、そのうち強烈な南部訛になってしまうのではないかとささか気がかりではあります。これを機に、家族共々「日本人のアイデンティティ」なるものをとくと勉強したいものだと考えております。

それにしても、美味しいラーメンが食べたい。

「弁護士になってよかった」

野田総合法律事務所勤務 富川 泰志 (昭和60年卒)



今年4月より弁護士になり、充実した毎日を送っています。私の勤務している法律事務所が扱っている事件は、ほとんどが民事であり、刑事は私が個人的に国選事件をやっている程度です。

私が今担当しているのは、家屋明渡請求、請負代金請求、損害賠償請求、遺言執行など、ごく一般的な国内民事事件です。しかし、事件の全貌を把握するには、法律以外のさまざまな専門知識も必要になり、勉強しなければならないことがたくさんあります。その分大変な苦勞がありますが、逆に言えば、常にいろいろなことを学ぶことができ、楽しい仕事ではあります。

私が弁護士になろうと思ったのは、大学4年のときでした。3年のときに外国語学部には民商法演習という科目があり、弁護士の岡部先生が担当されていました。その講義を聞いて、法律というものに興味を持ち、法律書を読むうちに弁護士になって身を立てていきたいと思ったのです。それで、司法試験の勉強を始めたのですが、当初は図書館にこもって、分厚い法律書をひとりで黙々と読んでいました。しかし、法学部でもなく、法律の講義をもろくに聞いたことのない私には、難解で容易に理解することはできませんでした。そんなとき、司法試験の予備校があると知り、予備校に通い始めたのでした。ここでは受験仲間もでき、司法試験受験のいろいろな情報を手に入れることができました。法学部でない私には、大学に受験仲間がいなかったので、予備校の友人は貴重でした。こうして約8年に渡る長い受験生活が続きました。その間いろいろな悩み、苦しんだこともありましたが、周囲の応援のおかげで、受験8回目にしてようやく合格を果たすことができました。

先日、私が弁護した被告人の判決があり、求刑よりもかなり軽い刑でした。その人が、私に「ありがとうございました」と笑顔で感謝してくれたとき、私は、長い道のりだったけれど、弁護士になってよかったなあ、と実感しました。

卒業生短信

前号より始めたこのコーナー、予想以上に反響がありました。今回は9月末までに事務局に届いたお便りを掲載いたします。なお、「このような本を出版しました」というお知らせ(宣伝?)がありましたら、どうぞこのコーナーをお使いください。(なお、文中では敬称を略しております。ご了承ください。)

◆今年4月より上海駐在となりました。入社以来6年間国内営業の後、昨年から中国語の研修、そして転勤と、全く英語から遠ざかった生活をしております。が、中国語から英語を使う機会が出来て(中国語のレベルが低いからなのですが)英語力の衰えぶりにガクゼンとし、再学習しようかと思う今日この頃です。

上海にお寄りの際はご一報ください。

住所: 上海市興義路48号新世紀廣場A902室

Tel: 86-21-6270-2879

勤務先: 住友金属工業(株)

上海事務所

Tel: 86-21-6219-3868

浅野英俊(平成元年卒)

◆昨年3月26日に卒業以来初めてのクラス会に出席させて頂き、幹事の方には大変ご苦労さまでした。幹事の三浦君にはお忙しいところ大変ご苦労さまでした。

その際卒業以来初めてお目にかかった珍しい人にも会え、大変有意義な時を過ごすことができました。また、かつての先生をお招きして楽しい一時を過ごすことができ、幹事の方に大変感謝しております。

機会があれば率爾ながら私が幹事を引き受けても良いと考えております。もしよろしければ微力ながらお手伝いさせていただきます。昭和38年CLASS会を発足させたいと思いますが如何でしょうか。

佐藤 寿(昭和38年卒)

◆卒業後3年間勤務した会社をやめたばかりです。今後の進路を早く決めたいのですが、なかなかはっきりとした答えが出なく

少々焦りを感じる毎日です。

卒業後もコミュニティーカレッジでいくつか授業を取っており、上智大にはわりと足を運んでいます。現在はまだ若い学生にまじって"Study for TOEFL"などの授業に出ており、また自分も学生に戻ったような気持ちです。何歳になっても学び続ける姿勢を失いたくないと思っています。

提坂千秋(平成5年卒)

◆JNN(TBS系)の研修で、5月から1年間留学致します。ジャーナリズムやマルチメディアについて、ニューヨーク大学にて勉強する予定です。

橋原祥光(平成3年卒)

◆卒業してはや10年以上、先日知人の結婚式(ニューオータニ)出席の際、ほぼ3年ぶりに四ッ谷駅から大学のあたりを歩き、その変化に驚いてきたところです。

現在、二人の子どもの母のかたわら、翻訳の仕事(「かたわら」の前後は逆カモシレナイ…)をしています。今年、県の国際交流事業で、幼児・小学生のための異文化経験、国際理解のプログラムにかかわることになりました。そこで、そのための材料を求めています。幼稚園・保育園児および小学生対象の異文化経験の材料——外国の同年代の子どもが楽しんでいるゲーム、歌、あそび、おやつなど、あるいは関連資料など、何でもご存じの方、このような仕事の経験がおありの方、教えてください。お願いします。

〒020 岩手県盛岡市本町通1-10-5-901 Tel/fax: 0196-53-9658

Nifty-serve ID: CXJ12727

河田裕子(旧姓 銭谷)(昭和60年卒)

◆前回の会報で、香里ちゃんのお便りを発見し、とても嬉しくなりました。卒業して以来、わずかな友人を除いてクラスメートとはほとんど顔を合わせていません。住所のわからなくなってしまった人もたくさんいます。クラス会でも開きたいと思いつつも、日頃、1才になったばかりの下の娘の猛烈な甘えぶりのせいで、電話も5分かかけられません。どなたかこれを見たら企画して下さい! 上の子は4月から幼稚園に通い始めました。2人とも主人(融)にそっくりなので、是非みんなに会わせたいと思っています。

佐々木淳子(旧姓 井上)(平成4年卒)

◆平成8年6月末で60才定年、フジテレビを退職しました。昭和36年3月に入社以来、営業、編成、報道各局と2回産経新聞社に出向しました。一回目の出向は昭和46年からで、水俣病に象徴される公害を防止するキャンペーン、第二回は昭和58年9月から、土光臨調の「地方行革キャンペーン」事務局に勤務し、各地に行革推進団体を作りました。昭和61年から平成8年6月までの丸10年間、(財)国際文化交流協会に派遣され、国際文化の交流推進の仕事をしました。どの仕事も大変やり甲斐があり、充実した35年間をサラリーマンとして過ごしました。定年後は、ボランティア活動に専念いたします。英語学科SELDAの輪が広がるよう祈っています。

大和ヤングハートの会

FAX 0462(77)4390

簡井義人(昭和36年卒)

◆前号で還暦を迎え時事通信社を退職したとお知らせしましたが、4月から横浜総局で業務委託者として勤務、横浜生糸取引所の取材をしています。60歳から全く未知の生糸の世界へチャレンジしています。

堀亮君は三井精機のデュッセルドルフ駐在員として、この歳で頑張っています。小林康司君は日本相撲協会広報部の専門委員に再就職、活躍が期待されます。

佐々木寛(昭和34年卒)

◆昭和48年卒の福岡繁樹です。(留学の為に1年遅れたので、昭和47年度卒の方がよく知っていただいているでしょう。)

昨年、上智出身の妹(木村真理)と共訳で「こころのチキンスープ」をダイヤモンド社より出版しました。好評につき、本年4月にその2巻が同社より出版されました。この本はアメリカで250万部以上売れ、'95 The Book of the Yearに選ばれたものです。ぜひ御一読ください。(ペンネーム:土屋繁樹)

福岡繁樹(昭和48年卒)

◆1995年4月末に米国ダラスでの5年半に及ぶ日本の観光宣伝業務を終え、帰国しました。現在、国際観光振興会(Japan National Tourist Organization)観光交流部受入事業課長として、外国人旅行者が一人歩きできる日本の受入体制整備を目指して各種の外国人旅行者受入対策事業を行っています。語学関係としては唯一の国家試験である通訳案内業(ガイド)試験も担当していますので、語学に堪能な皆様の受験をお待ちしております。

お問い合わせ先は、
Tel. 03-3216-1903です。

鈴木誠一(昭和44年卒)

◆金沢大学の教養部には、私の3年先輩である斉木先生と私の二人の英語学科卒業生が勤務していましたが、平成8年4月の改組にともない、二人そろって教育学部英語教育教室に配置換えになりました。教官定員5名の教室に二名の英語学科卒業生ということで、英語教員養成の場での責任の重さを感じています。これからはASTEの活動にもより注目して行きたいと思っています。

守屋哲治(昭和60年卒)

◆この3月に8年間勤めていた会社を辞め、今はあこがれの専業主婦をしています。まだ子供はいないので、自由な時間を利用していろいろな事を楽しんでいます。その一つに、4月より上智大学の公開学習講座を受け始めました。私が現役だった頃はなかった総合科目である「環境概論」の講座は、環境問題を勉強するのに最適な講座で、毎回学内のみならず学外から講師をお呼びして、興味深い講演をお聞きしています。100人以上の若い学生さん達にまじって広い講堂に座っていると、なんとなく自分だけ浮いている気がして恥ずかしいのですが、真剣な眼差しで聞いている彼らの姿に、10年前の自分の姿を重ね合わせて青春時代を懐かしんでいます。S.63卒の50クラスのみなさん、お元気でしょうか。様々な分野で活躍しているみなさんに会いたいです。ぜひ同級会を開きましょう。E-mailを使っている方、メール下さい。

E-mail: mikolin@sphere.ad.jp

御子柴理佐(旧姓伊藤)(昭和63年卒)

◆米国オハイオ州のオハイオ州立大学その他で在外研修をし、1995年9月はじめて帰国いたしました。冬休みは、上智の新聞学科で学ば

れた紀子Palmer(旧姓 後藤)さん宅で過ごし、春にはWashington, D.C.で開かれたAASの年次総会で研究発表。Georgetown大学で開かれたATJ大会の折りに、久し振りにFr. S. Sara, SJにお会いすることができました。

小田三千子(旧姓 松尾)(昭和38年卒)

◆外英を34年3月に卒業し、以後英語教員19年、県教委等行政11年、高等学校校長3校7年を無事勤め上げ、3月末で定年退職。

外英同窓会には失礼をつづけてきましたが、今日あるのは外英のおかげであったと感謝しております。永江史朗(昭和34年卒)

◆平成4年11月に大学の同級生だった大下剛史と結婚し、早1年半が過ぎました。その間転職も経験しましたが、何とか主婦とOLの二足のわらじをはき続けています。会社を変わる際に専業主婦になることもちらっと考えましたが、人との出会いが待っていると思い、働き続けることに。

現在はイオンフォレストに勤務し、日本国内の"THE BODY SHOP"運営に携わっています。学生の頃から関心のあった企業であり、少々回り道にはなりましたが、働きたかった会社で働ける幸せをしみじみ味わっています。

皆さんもお近くの"THE BODY SHOP"のお店に是非お立ち寄り下さい。

大下英津子(旧姓 鎌田)(平成3年卒)

◆二才になった娘に、早いうちからと思い英語を教えています。せめて発音だけでも頑張っていますが、家ではなかなか続けていくのが難しく、忙しさに流されずに継続してやっていきたいと思っています。嬉しかったことは、"L"

の発音がきれいにできるように
なったということです。

久保秀子(旧姓 尾上) (平成3年卒)

◆提案: SELDAA女性セミナーに
関して

このセミナーは東京近郊の女性ソ
フィアンを対象に計画されている
ように受け取られますが(そして、
主婦or日中勤務していない女性、
その他)、本当に聴いてほしい聴
衆は、実は現実には実社会に於いて
活躍し、活力ある女性達は含まれ
ない——むしろ除外されているよ
うなスケジュールになっていると
思います。このセミナーの主旨は、
あるいは、それ程の積極的な意図
を持っていない、単なる知的好奇
心をくすぐるためのものなのでし
ょうか。週休2日がある程度浸透
している日本の社会で働いている
力のある女性達も覗けるプログラ
ムをつくり、そのようなスケジュ
ールをたててほしいと思います。
土曜の午後なら新幹線に乗って東
京へ行こうと思う人たちがいるは
ずです。もともと上智は東京中心
ですが、実際には日本中に卒業生
がいることを忘れないでEVENT
を企画して下さい。

山下哲子(旧姓 工藤) (昭和55年卒)

上記のご提案について、女性セミ
ナー担当者から以下のようなコメ
ントが寄せられています。

「同じようなご意見をお持ちの方
は、他にもいらっしゃると思いま
す。もともと女性セミナーは、子
育てから手が離れかけた女性会員
がもう一度英語の勉強をしてみたい
という声にこたえて、10年ほど前
に始まったものです。そのため時
間設定も主婦が出掛けやすい平日
の午前中となり、そのまま今まで
続いています。今年度中はもうス
ケジュールが決まっています急には
変更できませんが、週末にしてほ

しいというご意見が多くなれば、
今後検討していきたいと思いま
す。この件にかんしてのご意見ご
希望があたりの方は、事務局まで
ご一報下さい。」

◆今年の4月1日から財団法人日本
相撲協会広報部勤務です。わびさ
びを含む相撲の発展と国の内外へ
の"感動"の伝達に努めます。「還
暦」の新入社員です。上智大学同
窓の仲間の皆さんの応援を期待し
ます。

3年前までのNHK時代は多くの
方々の支援を受け、大変感謝して
居ります。

また、NHKを早期定年退職した後、
平山郁夫画伯の「広島生変図陶壁
画製作」のボランティア募金事業
でも、同窓の「平和の心」を数多
く頂きました。誠に有り難うござ
います。

これからも「一命を救う気持ちが
地球を救う」の精神で頑張ります。
そのためにも皆様のご健勝を祈っ
ています。

小林康司(昭和34年卒)

◆2年前に医学部を卒業し、医師
免許を取得しましたが、今は娘2
人(6才と1才)の育児を中心に据え、
週に数回個人病院に勤務するの
と、アルバイトに行く以外は自宅
におります。遠回りして医師にな
ったのだから、少しでも早く臨床
経験を積んで一人前にならなけれ
ば、という焦りは勿論ありますが、
その間子供たちが成長せずに待っ
てくれる訳ではないので、かけが
えのない乳・幼児期を、その
驚く程速い成長の過程を愛しみな
がら、共に過ごしていきたいと思
っています。

大塚由美(旧姓 大慈彌) (昭和60年卒)

◆7月末、7年振りに帰国しました。
Los AngelesではUCLAでTESLの修

士号をとったり、Santa Monica
Collegeで日本語を教えたりと、貴
重な経験をしました。

木村和美(旧姓 本山) (昭和49年卒)

◆最近、昭和46年と一年遅れの47
年に卒業した2人の同級生の著書
が出版されました、是非皆様にも
ご紹介したいと思います。

『大草原のローラに会いに
—「小さな家」をめぐる旅』

谷口由美子著 求龍堂

『大草原の小さな家』他の訳を手
がけている著者が、小学生の時に
ローラと出会い、大学4年のとき
交換留学生として行ったアメリカ
の大学で、「大草原」シリーズを
見つけ、「ローラ巡礼」に出て、
念願の翻訳を実現していった想
いを綴ったエッセイ。挿入されて
いる大草原やローラのふるさとの
写真が大変美しい。

『英語の達人』 杉田敏著 DHC

上智大学講師である著者が、日本
で生まれ、初等中等教育は日本で
受けながら、並外れた英語力を発
揮し、各方面で独自の境地を開い
て活躍している13名の「英語の達
人」と呼ばれる人たちに、対談形
式で努力の足跡を聞き、そこから
英語学習のヒントを得ようという
もの。國広正雄さん他13名の中に、
ハーバード大学ビジネススクール
で日本女性として初めてDBA(経
営学博士号)を取った石倉洋子さ
ん(昭和46年卒)が紹介されている。

土肥幸子(旧姓 山口) (昭和46年卒)

卒業生が表わした書籍として、
次のタイトルが事務局に届いてお
ります。

宮脇裕子(旧姓 板垣) (昭和53年卒)訳
『狩人の夜』デイヴィス・グラッ
プ 著(シリーズ百年の物語5)

トバースプレス1,300円

SELDAA女性セミナー

女性セミナーでは、毎月一回学内外から講師をお招きして、それぞれご専門の分野の講演をしていただいています。今回は、今年4月から9月までに開催されたセミナーの講演をまとめてみましたので、この場を借りてご報告いたします。

4月24日(木) Fr. W. カリー (比較文学部長)

「国際理解のための教育」

他者への基本的な考え・感情は、家族の中で代々受け継がれるものであるとの立場から、国際理解のための教育には、まず家族での教育が大切であるということを強調されていました。

5月22日(木) 垣ヶ原美枝氏 (演劇通訳翻訳家)

「戯曲翻訳—しゃべれるセリフに訳す—」

イブセンの「The Lady from the Sea」について具体的にお話がありました。このタイトルには訳語の選び方によって、「海の貴婦人」「海の婦人」「エリーダ」などの日本語タイトルがつけられているとのことでした。

また、「Free Will」の翻訳にあたっては、言葉の選び方が難しかったそうで、結局、日常の言葉ではない、「自由意思」と訳されたそうです。翻訳の時の言葉も、速いスピードで変化しつつある日本語を考慮して選んでいらっしゃるということでした。そして、対決や衝突を避けるために、言葉も女性的になってきているとの指摘もありました。

6月26日(木) Fr. C. ロベルジュ (元フランス語学科教授)

「VT法を使った語学教育」

ユーゴスラビアの難聴児が、Verbo-Tonal-VT法によって話せるようになる過程を撮ったビデオを見せていただきました。また、VT法の実際の方法をチャートを使って、手や身体を使って実演して下さったり、また、日本の小学校でVT法を応用した仏語教育の教室風景のビデオも視聴しました。

7月10日(木) 映画「SHADOWLANDS」鑑賞

9月11日(木) Fr. P. ミルワード (上智大学名誉教授、東京純心女子大学教授)

「SHADOWLANDSのうらばなし—C.S. Lewisの思い出—」

実際にFr. ミルワードがオックスフォードの学生時代に教えていらしたLewisのこと、卒業され日本に来られてからは、長く手紙のやり取りがあったこと等、思い出を交えて、映画や本からは知り得なかったLewisのお話や、オックスフォードでの学生生活をお話して下さいました。

<今後の予定>

- 日時: 原則として毎月第4水曜日 10:30~12:00
- 会場: かつらぎ館地下1階ホール
- 会費: 3,000円/年、または、500円/1回のみ
- 会 計: 三好比呂子03-3348-0285
- 連絡先: 世話人日岡久美子(49年卒) 03-3775-8988 渡辺まかや045-361-4221

10月23日(水) 講師 Fr. D. ドイル (英語学科教授) / テーマ「アイルランド関連のお話」

11月27日(水) 講師 ペマ・ギャルボ氏 (チベット文化研究所 所長) / テーマ「"ANIMAL FARM"について」

12月11日(水) 講師 石倉洋子氏 (青山学院大学国際政治経済学部教授)
テーマ「情報技術(E-mail, Internet)の進展によってひろがる女性の世界」

毎回たくさんの方にご出席いただいています。最近他学科出身の方の参加が多く、担当者としても嬉しい限りですが、英語学科出身の方にも、もっともっと参加していただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

1996年度定例総会報告

1996年度SELDAA定例総会が、今年もオール・ソフィアンズ・デーにあわせて1996年5月26日午後1時30分より、上智大学1号館101教室にて開催されました。総会では、座間由美子会長(昭和43年卒)のあいさつの後、議長に大日方聖信常任委員(昭和62年卒)、書記に東郷公徳事務局長(昭和62年卒)を選出。引き続き前年度の活動報告がなされました。池沢なるみ副会長(昭和48年卒)より全体的な報告がなされた後で、寄付講座および先哲奨学金について吉田研作英語学科長(昭和47年卒)が、会報編集について佐藤誠一郎常任委員(昭和53年卒)が、また、女性セミナーについて安西徳子常任委員(昭和49年卒)が、それぞれ現状を報告しました。さらに、1995年度決算報告および1996年度予算案について池沢なるみ副会長から説明と報告がなされ、それぞれ承認されました。

SELDAA常任委員(平成8年10月現在)

- 名譽会長 / 吉田研作(昭和47年卒) ■会長 / 座間由美子(昭和43年卒) ■副会長・事務局長 / 東郷公徳(昭和62年卒)
- 副会長 / 池沢なるみ(昭和48年卒) ■会計 / 竹内りり子(昭和48年卒) ■会報 / 佐藤誠一郎(昭和53年卒) 大日方聖信(昭和62年卒)
- 女性セミナー / 安西徳子(昭和49年卒) 鈴木達也(昭和38年卒) 井波明夫(昭和39年卒) 小林 修(昭和39年卒)
- 関 浩一(昭和39年卒) 石川雅弥(昭和40年卒) 斎藤敬子(昭和48年卒) 増田 光(昭和59年卒)
- 監査 / 菊谷秀子(昭和43年卒) 井坂由美子(昭和47年卒)

決算・予算に関する報告

1995年度決算及び1996年度予算が、1996年5月26日に開かれた総会において承認されました。
収支決算額 13,044,850円／支出決算額 3,547,645円／次年度繰越金 9,497,205円

1995年度上智大学英語学科同窓会収支決算 自1995年4月1日 至1996年3月31日

収支決算額	13,044,850
支出決算額	3,547,645
次期繰越金	9,497,205

(単位：円)

科目	予算	決算	備考
収入			
1 前年度よりの繰越	4,785,371	8,349,484	※1
2 入会金	100,000	97,000	1,000円×97人
3 会費	2,600,000	4,588,000	2,000円×1,084口・20,000円×121人
4 受取利息	110,000	10,366	普通預金・郵便貯金・債券等
合計	7,595,371	13,044,850	
支出			
1 名簿作成積立金	600,000	600,000	1997年発行予定
2 名簿作成準備金	50,000	0	
3 会報作成	750,000	805,940	会報20号・21号
4 会報郵送料	800,000	728,080	*
5 会報発送料	90,000	84,795	*
6 パーティー補助金	100,000	29,412	総会後懇親会
7 女性セミナー	150,000	150,000	講師への謝礼等
8 常任委員会運営費	200,000	71,072	会議費
9 事務処理費	400,000	405,476	印刷代・郵便料・振込手数料
10 寄付講座	640,000	640,000	1995年度講師への謝礼
11 予備費	3,815,371	32,870	慶弔金・返金
合計	7,595,371	3,547,645	
差引収支		9,497,205	1996年に繰越

※1 決算繰越金について

1994年度までは、当年度以降の受け取り分は預り金として分別し、繰越金に含めておりましたが、今年度より永久会員という制度も発足したため、今年度の繰越金には当年度以降の受け取り分を一括して計上いたしました。

1996年度上智大学英語学科同窓会予算 自1996年4月1日 至1997年3月31日

(単位：円)

科目	予算	備考
収入		
1 前年度よりの繰越	9,497,205	1995年度より繰り入れ
2 入会金	100,000	1,000円×100人
3 会費	2,000,000	2,000円×1,000口
4 受取利息	10,000	普通預金・郵便貯金・債券等
合計	11,607,205	
支出		
1 名簿作成積立金	600,000	1997年度発行予定
2 名簿関係費	50,000	不明者リスト作成・発送費等
3 会報費	1,740,000	会報22号・23号分 編集・印刷料 850,000 郵送料 800,000(切手) 発送料 90,000(封入・周出し)
4 女性セミナー	180,000	講師への謝礼・交通費
5 寄付講座	670,000	*
6 総会費	100,000	資料作成費・懇親会
7 会議費	100,000	常任委員会打合せ
8 事務処理費	400,000	印刷代・郵送料・振込手数料等
9 予備費	7,767,205	
合計	11,607,205	

先哲奨学金スタート

野口奨学基金を基にした新しい奨学金制度が、「上智大学英語学科先哲奨学金」という名称で、今年度より実際に運用を開始しました。これは、「学業成績が良好で、経済的に困窮している上智大学学部学生を対象に、原則として学資金の一部として給付する」ものです。本年度は慎重な審査の結果、2名の学部学生にそれぞれ18万円ずつが支給されました。

●異動通知にご協力ください。

ご住所、勤務先などに変更があった方、名簿の誤りを訂正される方、お名前の正しい読み方を知らせてくださる方は、英語学科同窓会事務局かソフィア会にお知らせください。また住所不明の方が多数いらっしゃいます。消息をご存知の方、情報をお寄せください。皆様のご協力をお願いいたします。

SELDAより、募集とお知らせ

- ◆SELDAでは卒業生の方より、この会報に載せる記事を募集しています。近況や最近感じたことなど、なんでも結構です。原稿に写真を添えて、あるいは同封の葉書にご記入の上、お送りください。
- ◆OB、OGによる趣味のサークルメンバーを募ります。グルメの会、ハイキングの会など、現在活動しているものから、これから設立を考えているものまで、何かございましたらご一報ください。
- ◆この同窓会の常任委員として手伝ってくださる方を募集しております。ボランティアで私達と一緒に会を盛り上げてくださる方、ご連絡お待ちしております。

上記に関するご応募・お問い合わせは、お気軽にどうぞ。

連絡先；英語学科事務局 東郷公德まで TEL.03-3238-3719 FAX.03-3238-3910

会費納入のお願い

本会の諸活動は、卒業生の皆様からの会費の納入によって賄われています。同窓会活動のより一層の充実と活性化を図るために、ぜひ会費をお支払い下さいますようお願い申し上げます。会費の支払い方法には、毎年会費を支払う一般会員と、一括払いの終身会員の2通りがあります。初めて会費をお支払いになる際には入会金もあわせてお支払い願います。金額は下記の通りです。同封の振替用紙にて最寄りの郵便局または銀行よりお支払いください。その際、ソフィア会会員番号を必ずご記入ください。

入会金：1,000円
一般会員：年会費 2,000円
(できれば3年分まとめて)
終身会員：一括払い 20,000円

《あなたの会費納入状況》

9月30日現在で本年度の会費が未納になっている場合、封筒の宛名ラベルに「未納」を意味する「未」の字のスタンプが押してあります。5,000人を超える同窓会会員の会費納入状況のチェックには多大な手間と時間がかかります。チェックの時期と納入の時期が重なったなどのために行き違いがあった場合は何卒ご容赦ください。